

○令和元年度第2回子ども・子育て応援県民会議委員の事前のご意見

整理番号	第4期計画			資料2		事前意見 ※意見の小見出しは便宜上事務局で付記したもの	提出者
	章	節	項目	ページ	行番号		
1	1	1	-	1	-	「自分(心)の居場所」、ここは素の自分でいられる。愛されている。安心してここに居ていいんだ!!と感じる…。親、保護者、親戚、地域の人々…が。	井村委員 (PTA連合会 母親部会)
2	1	2	2(1)②	2	69	【意見】子どもが自分の気持ちや考えを表明できるための支援 「②子どもが、『児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)』等に基づいた学習をとおして、自分の暮らしや将来に関し、自由に自分の夢や気持ち、意見を大人に伝えられる機会を積極的に設けます。」に、次の文を加えていただきたい。 《追加文案》 子どもが自分の気持ち又は考えを表明するために適切な支援が受けられるよう努めます。 (理由) 子どもがSOSを出しているにも関わらず、悲しい事件が相次いでいます。社会参加の意思表明権だけでなく、今の気持ちを受けとめられることの必要性を強く感じます。「子どもアドヴォカシーサービス」の導入を望んでいます。	平井委員 (チャイルド ラインおおい た)
3	1	2	2(2)③	2	70	【意見】体罰について 体罰が不要であることは当然のことですが、どこまでがしつけでどこまでが体罰なのか？親御さんたちは判断がつかない状況が出てくると思います。 体罰は不要であることの啓発とともに、早くから子どもへの体罰を禁止している諸外国のしつけや教育方法の紹介、また有識者の講演会を行うことなども必要ではないでしょうか。	幸野委員(お おいたパパく らぶ)
4	1	3	めざす姿	3	85,86	【意見】「共に家事や育児を楽しむ」という表現について 「共に家事や育児を楽しむ」という文言についてです。 かなり検討を重ねた上での「楽しみ」という表現なのだと思いますが、イメージの押し付けのような違和感を感じてしまいます。 楽しいと感じることはありますが、ほとんどの人が追われている現状の中で、一般の感覚とは距離がある気がします。 共感してもらえる表現のほうが良いのではないのでしょうか。	井口委員(大 分放送)
5	2	1	めざす姿	4	104	【意見】命の授業等で自他を愛する気持ちを養う 生命の大切さや親になることによる喜びと責任について、学び・考えるようになるには、小中学生頃より、自分は望まれて生まれてきた大切な命であり、大切な存在であるということに、気づいてもらい、自他を愛する気持ちを養ってもらうよう、命の授業等で働きかけていくことも1つのきっかけになると思う。	室委員(大分 県助産師会)
	7	2-2	2(1)①	44	733		
6	2	1	2(3)②	6	129	【意見】若者への正しい知識の普及・啓発 これから妊娠適齢期を迎える若者に、正しい知識の普及・啓発を図るための出前講座、妊活アプリ等の支援はとてもよいと思う。 専門学校や大学等をはじめ、企業や職場にも深く周知して出前授業を広げていけたらよいと思う。	室委員(大分 県助産師会)
7	2	1	2(1)①A	4	112	【意見】早い時期からの性教育の重要性 大分県助産師会と看護科学大学の学生と一緒に、性教育の授業を実施している。中でも、大分市立三佐小学校は、学年ごとの命の授業を18年ほど続けている。小学校1年生は赤ちゃんの人形を抱いてみる、少し上の学年は第二次性徴などを勉強するなど、学校全体で取り組んでいる。早い時期からの性教育は大事。 性についてオープンに話せるような場、相談できるような場があるといい。おっぴらに話すことが憚られる環境があることが、望まない妊娠や性犯罪につながることもあるのではないかと。	藤澤委員(大 分県立看護 科学大学)
	2	1	2(3)②	6	129		
	3	2	2(2)	10	205		
	3	2	2(3)	10	206		

整理 番号	第4期計画			資料2		事前意見 ※意見の小見出しは便宜上事務局で付記したもの	提出者
	章	節	項目	ページ	行番号		
8	2	1	2(2)②	5	124	【意見】大分で就職、結婚、出産できる環境づくりを 大学院まで出ても、学歴に見合う待遇を提示する企業が県内に少なく、関東に出て行く学生もいる。せっかく大分で勉強したのにもったいないと感じる。 大分の同世代で「出会い」があると、自然と大分で暮らすようになるが、県外の人と出会うと、特に女性は、相手に合わせて仕事を辞めたり、県外に出て行かざるを得ない場合もあるのではないかと。 卒業研究の一環で、出産で入院中の方にアンケートを行った。「やめざるを得ない名目を付けられて、第2子で退職せざるを得なかった。」という趣旨の回答があり、残念な気持ちになった。(育児休業などの)制度があっても、実際に運用されなければ意味がない。	藤澤委員(大分県立看護科学大学)
	2	2	2	6	145		
	5	1	2⑦	23	415		
9	2	1	2(4)	6	130～	【意見】不妊治療への理解を 不妊治療をすることについて、周囲の目を気にしたり、引け目を感じる方も多いという話を聞いた。家族や社会が不妊治療について理解し、不妊治療が悪いことじゃないということを知ってもらいたい。	藤澤委員(大分県立看護科学大学)
10	2	1	2(1)①ウ	4	113	【意見】子どもの育ち、親としての成長への支援 子どもにとっては親が絶対なところがあるが、親以外にも頼れるところがちゃんとあるといい。 親との関係に悩む子もいる。自分でこうしたいという意思があっても、親が自分自身の希望を押し付ける状況もある。そういう親自身もそのような環境で育ってきた場合、そこを変えていくのはなかなか難しい。 子育てに悩む親も多いと聞く。子育て中の親が頼れる場所を地域につくるなど、行政だけでなく、地域で親としての成長を支援していくことの必要性も感じる。 虐待を受けた子どもをたどるとその親も虐待を受けていたということはある。親の育ちを支援することで、虐待の連鎖を防ぐことにもつながると考える。	荒金委員(大分大学)
	3	1	2(2)	8	171～		
	4	1	2	14	269～		
	4	4	2	19	357～		
	6	1	2(1)①②③	26	477～		
	7	3	2(1)	48	809～		
11	3	1	2(2)2(4)	8,9	171～174 177～181	【意見】妊娠期からの子育て支援の充実及び子どもの健やかな発育・発達への支援について 子どもの権利保障からすると、予期せぬ妊娠や望まない妊娠であっても、あるいはDV、貧困などであっても、妊婦やその家族への総合的な支援による良好な環境づくりによって、胎児期を健やかに生育し出生時に公平なスタートが切れることが重要。	相澤委員(大分大学)
12	3	1	2(2)	8	172	【意見】妊産婦医療費助成制度 臼杵市では、4月より、妊産婦医療費助成制度がスタートし、妊娠中の医療費の負担を減らす取組が行われていると聞きました。 全国でも市町村によって違うそうですが、県として取り組んでいるのは栃木県等4県だそうです。 大分県でも統一して制度があると、妊娠中も安心して過ごせると思います。	室委員(大分県助産師会)
13	4	1	2③	14	271	【意見】子育てほっとクーポンについて 出産する子どもの人数に応じて、クーポンの支給額も増え、子育て世代にはとてもありがたい取組だと思う。 サービスの内容も増え、充実してきていると思うが、サービスを受けたいときに受けられるよう、偏りのない利用ができるともっとよい。	室委員(大分県助産師会)

整理 番号	第4期計画			資料2		事前意見 ※意見の小見出しは便宜上事務局で付記したもの	提出者
	章	節	項目	ページ	行番号		
14	4	1	2③	14	271	【意見】子育てほっとクーポン 現在、子育てほっとクーポンは園に入園していない親子にとっては色々な使い道があるが、入園している親子に対して使用できる範囲が限られている。 たとえば、1号認定の預かり保育や2・3号認定の延長保育に利用できるようになると利用率も上がると思う。	神田委員(大分県保育連合会)
15	4	1	2⑦	14	275	【意見】一時保育に携わる者の資格について 子育てほっとクーポンにより、育児疲れやリフレッシュといった理由で一時保育の利用率が上がってきている。 園では少しでもそのニーズに応えたいが保育士(保育教諭)の人材不足の為受け入れが出来ない園がある。 保育補助者等、免許がなくても担当できるようになれば、対応が出来るようになると思う。	神田委員(大分県保育連合会)
16	4	1	2⑪	15	279	【意見】放課後児童クラブ 現在、児童クラブの受け入れを3年生まで、4年生までといった範囲で受け入れている児童クラブが多い。不審者情報等(ネット被害も含む)が日々飛び交う中、児童の安全を守る為にも受け入れ範囲を拡充できるよう整備をお願いしたい。	神田委員(大分県保育連合会)
17	4	1	2⑨⑩	15	277 278	【意見】補完的な支援機能の充実 できるだけ家庭で生活できるように、家族療法事業、ショートステイ/ワイルドステイ事業の柔軟な活用や拡充により、「親子で利用できる心理治療的なデイケア事業」、「施設等を活用して親子で短期宿泊して育児及び家事支援等を行う在宅支援事業」、あるいは「毎週、数日間施設で断続的に預かる」といった子育て家庭の養育を補完するような事業」などの実施が課題である。 このような事業を実施すれば、親子を分離せずに支援することが可能になるケースが出てくる。	相澤委員(大分大学)
	6	2	2(2)④	28	509		
18	4	1	数値 目標	15	282 283	【意見】地域子育て支援拠点(又はファミリー・サポート・センター)について、知っているか答えた就学前児童の割合 「就学前児童の割合」は就学前の子供では難しいと思います。 就学前児童の保護者を対象とする方が良いのではないのでしょうか。	井口委員(大分放送)
19	4	2	2(1)③	16	300	【意見】園児の安全確保～滋賀県の事件より～ 園児が公道(公園)において被害になるケースは、園の敷地内に園庭がない施設がほとんどである。 大分県も待機児童解消の為、園庭が敷地内になくても認可(特例措置)している園がある。 園児の安全を確保するため安全整備の必要があると思う。	神田委員(大分県保育連合会)
20	4	2		16	-	【意見】保育現場として 保育士(保育教諭)の離職の理由として、保護者によるクレームといった保護者対応による事が年々増えてきている。 そこで、保護者の一日保育体験といったメニューを増やし、保護者の園に対する理解(保育の大変さ・子ども達への関わり方)を深めていただきたい。 その結果、スムーズかつ、精神的にも健康な保育につながると思う。 また、保護者も日々の子育ての振り返りにも繋がるのではないか。	神田委員(大分県保育連合会)
21	4	2		16	-	【意見】現場重視の施策を 乳幼児に関する子ども・子育てを取り巻く環境については、家庭・社会・子どもの関わる施設の連携が必要であるが、幼児教育・保育の無償化によって就園率の向上が予想される。 子ども全体の約7割以上が関わっている現場を重視した施策を取るべきであります。	土居委員(大分県私立幼稚園連合会)
22	4	3		18	327	【意見】放課後児童支援員の給与の引上げを 放課後児童支援員の資質の向上は必須事項ですが、同時に支援員の給与をあげていくことも必要であると考えます。	幸野委員(おおいパパくらぶ)

整理 番号	第4期計画			資料2		事前意見 ※意見の小見出しは便宜上事務局で付記したもの	提出者
	章	節	項目	ページ	行番号		
23	4	4	2④	19	360	【意見】県のホームページの男性育児体験談 県ホームページの男性の育児体験談は2010年より更新されていない ようです。2019年令和時代の父親たちの体験談を掲載して頂きたい。	幸野委員(お おいたパパく らぶ)
24	4	4	2④	19	360	【意見】パパの育児体験談 「子育て支援に関する行政情報や、パパの育児体験談など先進的な 取組事例等を県ホームページ「子育てのタネ」…等を活用して提供しま す」とあるが、「パパの育児体験談」は「父親の育児体験談」とするか、父 親に限定する必要がなければ、「育児体験談」とした方がよいのではな いか。	武津委員(大 分県小学校 長会)
25	4	5	2(4)②	22	397	【意見】「大人が変われば子どもも変わる」県民運動 相手の存在を認めることを意味する感謝としての「ありがとう」と謝罪と しての「ごめんなさい」を入れることについて検討を。 これこそが、大人が変われば子どもが変わる県民運動につながると考 える。	相澤委員(大 分大学)
26	5	1	2④	23	412 417	【意見】「おいた子育て応援団(しごと子育てサポート企業)」について 「おいた子育て応援団(しごと子育てサポート企業)」の認証制度に ついて、女性の就労支援も含めて、認証企業の『見える化』を図って欲し い。 認定マークがあるのであれば、広く周知して企業イメージを向上させて いきたい。	土居委員(大 分県私立幼 稚園連合会)
27	5	2	数値 目標	24	439	【意見】県職員男性の育児休業取得率を数値目標に 2017年度の都道府県庁の男性職員の育児休業取得率が平均で 3.1%、対して大分県は3.5%と全国平均より上回ったものの、1位の岐阜 (9.1%)には、大きく差をつけられている。 子育て満足度日本一を目指すため、民間企業に求める部分は大きい が、まず、「隼より始めよ」ということで、県職員男性の育児休業取得率を 何らかの数値目標に入れられないか。	篠原委員(社 会保険労務 士)
28	5	2	数値 目標	24	439	【意見】男性の育児休業取得率 男性の育児休業取得率を新計画に盛り込んで頂いたことはとても良い こと。 しっかりと数値目標を立て、行政と一般企業での取得率、また一般 企業でも大企業と中小零細企業の取得率というように詳細な取得率を 作成・発表し、問題点の抽出及び改善につなげて頂きたい。	幸野委員(お おいたパパく らぶ)
29	5	2	数値 目標	24	439	【意見】男性の育児休業取得率と併せて平均取得日数も表記を 女性の場合は長期で育児休業を取得するケースが多いが、男性の育 児休業は数日ということもあります。 実態を把握するには、取得率と平均取得日数も表記すると良いのでは ないかと思います。	井口委員(大 分放送)
30	6	1	2(1)④	26	480	【意見】児童虐待に対する取組の強化 児童虐待は家族の構造的問題であり、世代間連鎖を断ち切るためにも、 家族を単位にして包括的な支援を実施する必要がある(貧困対策D V対策との連携など。)	相澤委員(大 分大学)
31	6	2	2(1)③	28	503	【意見】里親の新規登録目標 「中学校区ごとに一人の里親を目標に、里親の新規登録を促進しま す。」とあるが、「小学校区ごとに複数の里親を目標に、里親の新規登録 を促進します。」としてはどうか。	相澤委員(大 分大学)

整理 番号	第4期計画			資料2		事前意見 ※意見の小見出しは便宜上事務局で付記したもの	提出者
	章	節	項目	ページ	行番号		
32	6	5	2(2)②	36	609	【意見】気軽に受診できる環境づくり 発育や発達気がなった時、気軽に、すぐに受診できる環境づくり。 発達の病院は予約で1～2ヶ月も待つそうです。 合理的配慮が必要な子どもへの理解と思いやりのある社会を。	井村委員 (PTA連合会 母親部会)
33	6	5	2(2)③④	37	616 617	【意見】「障害があることに肯定的になれる」ような支援 子どもの障害について、全ての親が発覚した直後から子どもの障害を受け入れられる訳ではないと思います。 また、障害と言われると、どうしてもマイナスのイメージが強くなってしまいます。 そのため、悩みや不安に寄り添うことが障害受容につながると思いますが、「障害があることに肯定的になれる」ような支援があると、家族での生活がより楽しくなるのではないかと感じました。	荒金委員(大 分大学 学 生)
34	6	5	2(1)①	35	601	【意見】障がい児への支援(早期発見・早期療育体制の充実) 早期発見早期療育体制の充実については、連携の強化を実施する中で、特別支援と療育の隔てのない横断的な活用を容易に実施・対応してほしい。 特に、幼児期の子どもはグレーゾーンにある場合が多くさまざまな配慮が必要である現場での対応に苦慮することが多い。 対応方法の研修やレクチャーと共に具体的に、人員の増員を図らなければ教育・保育現場での対応は不可能であります。	土居委員(大 分県私立幼 稚園連合会)
35	7	2		42	-	【意見】子どもの生きる力を育む関係性の育成 多様性を尊重し、共生教育(ともに生き、ともに育ち合うこと)ができる関係性の育成が重要。(いじめ、ひきこもりなどの予防にもつながる、親や友人からの評価などにより、「自分にはよいところがあると思う」と答えたい子どもの割合を増加させること)に繋がる 目標:例えば、友達(親友)の数など	相澤委員(大 分大学)
36	7	2-2	2(3)	44	739, 740	【意見】文化芸術活動の充実を 絵画展の実施など、子どもに直結した事業実施に県立美術館や市立美術館の公的な支援を深めてほしい。	土居委員(大 分県私立幼 稚園連合会)
37	7	3	2(1)②	49	811	【意見】「保育」の表記について (1)家庭の教育力の②「家庭への支援に際し、乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育についての理解に重点を置きます。」については、第3期計画と同様の文章ですが、「保育」という表記を「家庭保育」という狭義の表記にしてもよいのではないのでしょうか。文頭に家庭という言葉が書かれているので重複するかもしれませんが。	仲嶺委員 (別府短期大 学)